

フィルム出力は新しいステージへ!!



ダイヤミックが提案する「SmartGAF System」で革新的な経営変化を掴み取れ!

これまで、当たり前のように使用していた製版用途のフィルムは、デジタル化の波が押し寄せ、そのニーズは失われつつあります。いわゆる製版専門の業者は減少し、フィルム出力用のイメージセッターもその役割を終えようとしています。SDGSの観点からも、現像液を使用し廃液を出すシステムは、徐々にシユリンクしていくでしょう。

ただ、スクリーン・フレキシ印刷の分野に関しては、まだまだフィルム需要は不可欠な状況です。このような中、業務に支障が出ないように今後フィルムを安定して確保していく事が年々難しくなっていると不安を感じている方も多いのではないのでしょうか。ダイヤミックでは、旧来のイメージセッターに代わる新しいフィルム出力システムを「SmartGAF System」としてご提案いたします。

導入し易く、品質とコストに見合ったフィルム出力システムをラインアップし、お客様のお仕事に適したシステムを選択・ご提案いたします。

新開発サーマルレーザー感熱フィルム TRF-IR830

SmartGAF Systemにおけるラインアップの中核は、三菱製紙が新開発した「サーマルレーザーフィルムTRF-IR830」です。現像工程のない完全プロセスレス(ドライタイプ)のフィルムとなっており、830nmの赤外線レーザー光による感熱反応で画像を形成します。サーマルレーザー光を蓄熱変換する感熱反応により、正確かつ安定した画像が形成できるものです。イメージャーの性能にもよりますが、画像再現性としては「200線1%〜99%」をカバーしま

す。なお、フィルムイメージャーは、適合する「TRENDSETTER DIALIBRE」をダイヤミックがご用意しています。レーザースポットはスクエアで、正確かつ安定した露光をデジタル技術で実現します。TRF-IR830は、これまでのドライフィルムが採用してきたアブレーションタイプのようにレーザーでの焼き飛ばしで発生するデブリや臭気を抑えた環境に配慮したフィルムです。従来のイメージセッターフィルム同等の品質と耐傷性を持ち、現像工程での性能変動要素がないため、印刷物の質を下げたくない現場にとっては安心して使えるフィルムとなるでしょう。想定される主な需要としては、スクリーン印刷・フレキシ印刷における製版で求められるフィルム高精度・大サイズのフィルム出力が可能です。お客様からは、現場の作業効率化が進んだという声をいただくことが多く、他には国内メーカーである三菱製紙がフィルムを提供できる点・ダイヤミックによるサポートが迅速に受けられる点をメリットにあげられるお客様もいらっしゃいます。

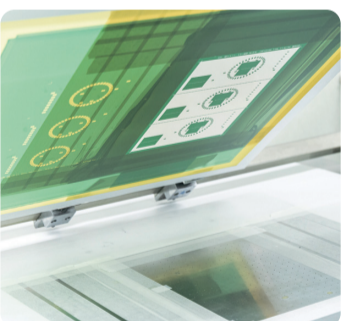
感熱製版フィルム TDP-IFS125

サーマルダイジプレートシステムの「TDPシリーズ(324II/459II/580/750)」で製版できるフィルムとして「TDP-IFS125」をご用意しています。TDP-IFS125は、特殊フィルム上に構成した感熱発色材料の熱による相変化を応用した製版フィルムです。サーマルヘッドで加熱された部分の感熱発色材料が反応して発色・可視化すると同時に、製版露光時のUV光を遮光するメカニズムとなっています。こちらのサーマルダイジ

プレートフィルムも、現像液・定着液などの処理液を必要とせず、環境に優しいプロセスレスタイプであることから、従業者の方の作業負担軽減にもつながります。また、感熱フィルムのため、完全明室での取り扱いが可能です。スクリーン印刷・フレキシ印刷、銘板製作などに使われ好評を得ています。

インクジェット製版フィルム TPFB100

また、初期導入コストを抑えたドライフィルムシステムとしてSAiインクジェット製版システムもご用意しています。17インチ(432mm)幅から42インチ(1067mm)幅までのメディアが用意されており、製版市場の様々なニーズに対応することができま。インクジェット製版フィルムTPFB・RIPソフト「SAi製版用FlexiPRINT」・「EPSONインクジェットプリンター」を組み合わせることで、製版フィルムの作成が可能です。ダイヤミック新聞Vol.12では、ダイヤミックが提案する「SmartGAF System」の導入によって業務を革新的に変化させた会社をご紹介しています。営業を取引先に頼りながら安定経営を実現する高い技術力、自社工場の中で案件に応じて適した機械を使い分ける対応力など、生き残りをかけ、それぞれの武器を磨いた各社の取り組みをご覧ください。



Smart GAF System

フィルムも無処理化へ「新世代ドライタイプフィルム」用途に合わせたフィルム出力システムをご用意しています。

NEW

TRF-IR830

サーマルレーザー感熱フィルム

スクリーン、フレキシ、レタープレス液体樹脂版の製版に最適

TDP-IFS125

感熱製版フィルム

TPFB100

インクジェット製版フィルム

TrendSetter DIALIBRE

Kodak



フィルムのセミオート装填が可能。実績のあるCTPと共通エンジンで高い信頼性を確保。

Thermal Digiplater

TDP-459II/324II TDP-750/580



直接感熱によるプロセスレス製版システム。長尺出力(※オプション)により、のぼり、段ボールなど大判用途にも対応。

SAi

インクジェット製版システム



水性インクジェットの製版システム。RIPソフト「SAi製版用FlexiPRINT」により、高濃度・高精細な製版フィルムを作成。

TRF-IR830特徴

- ① 高画質・高精度
- ② 処理薬品を一切使用しないプロセスレスドライタイプフィルム
- ③ 耐傷性や耐薬品性に優れ耐久性が高い
- ④ 非アブレーションタイプで環境にやさしい



三菱製紙グループ **ダイヤミック株式会社**
〒130-0026 東京都墨田区両国2-10-14 両国シティコア <https://diamic.jp>

ユーザー会社レポート

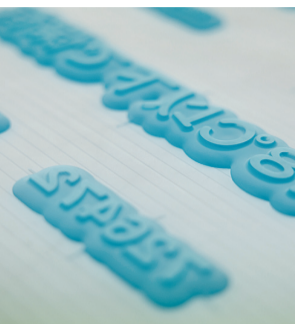
TRF-IR830が繋ぐ熱い絆！ 国産メーカーだからこそ生まれる信頼



北海道恵庭市
相互製版 北海道事業所

サーマルレーザー製版フィルム TRF-IR830
TRENDSETTER Q400

相互製版株式会社は、主に段ボールや紙袋印刷用の刷版を作るフレキシコ製版を手掛ける会社で、大阪府東大阪市に本社を構える。1970年に設立後、北は北海道から南は熊本まで、数多くの事業所を展開。今回取材した北海道事業所は、道内の大手段ボールメーカー等数十社を顧客に持ち、段ボール印刷用の刷版・供給を幅広く行う。フレキシコ製版に関しては、光を当てると固まる感光性樹脂を使用して、エンドユーザー向けのイメージを提案するところまでを担当する。全国の5工場に生産ラインがあるため、まとまった注文にも対応できる。設備も常に最新のものを揃えているので、スピード感のある製造を実現できるのが特徴。社内にはデザイナーが30名おり、社内ネットワークも万全の状態だ。



北海道の中心である札幌からおよそ30kmの距離にある恵庭市に事業所がある。最新の設備を実際に見学できる安心感は大きなものがある。

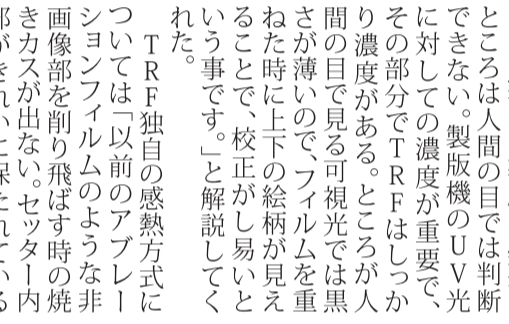
フレキシコ製版での使い勝手について、デザイナー課の元田亮主任は「従来使用していたフィルムから厚みや透過率が変わっているので、露光時間のテストを何度か行うことにより現在は従来の



「フィルムは黒さが薄いと製版が上手くできないわけだが、実際に製版で必要なところは人間の目では判断できない。製版機のUV光に対しての濃度が重要で、その部分でTRFのほうが濃度の目で見える可視光では黒さが薄いので、フィルムを重ねた時に上下の絵柄が見えることで、校正がし易いという事です。」と解説してくれた。

探して探して、最後にたどり着いたのがTRF-IR830。TRF-IR830(以下TRF)は、フレキシコ・スクリーン印刷での製版で求められるフィルム需要に匹敵する新世代フィルム。三菱製紙の独自開発、生産で画像の形成が一般的なアプリケーション方式ではなく、サーマルレーザーによる感熱方式となっていることが特徴だ。そして特にフレキシコ・スクリーン印刷製版での使用が考慮されている。導入の経緯について小笠原所長は「これまで使用していた海外のフィルムが供給体制に不安がある状況の中、代わりに国内製版を探していた。ただ、国内製造で安定供給という条件を満たしているメーカーは少なくて困っていたところでTRFがマッチした。採用のための評価をする中で、以前のフィルムはTRFに比べてデリケートで、TRFの方が扱い易いという事もわかった。」と話す。

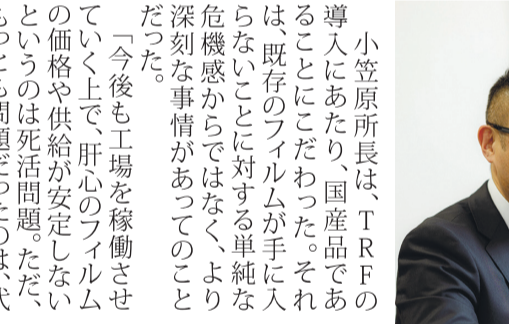
「フィルムは黒さが薄いと製版が上手くできないわけだが、実際に製版で必要なところは人間の目では判断できない。製版機のUV光に対しての濃度が重要で、その部分でTRFのほうが濃度の目で見える可視光では黒さが薄いので、フィルムを重ねた時に上下の絵柄が見えることで、校正がし易いという事です。」と解説してくれた。



「今後も工場を稼働させていく上で、肝心のフィルムの価格や供給が安定しないというのは死活問題。ただ、もっとも問題だったのは、代替品がない状況が生まれることだった。現在使用している機械にマッチするかどうかという問題もあるから、正直言って選択肢がない状況というのは避けたい。最新設備の充実とノウハウの蓄

の配慮もなされていると思う。」とのこと。また、「細かいところで言うと、以前のフィルムは過剰梱包になっていた部分がある。結構重たいので女性が運べないこともあった。その点TRFは簡素だから、置き場にもゆとりがある。」TRFは、現場の業務効率化に貢献している。

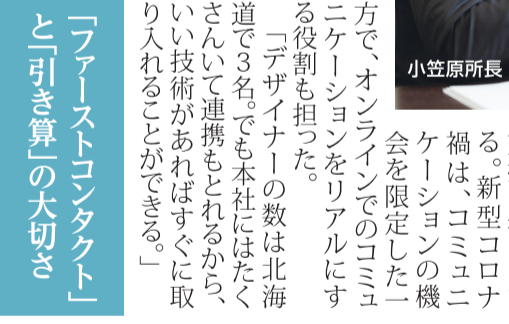
「ファーストコンタクト」と「引き算」の大切さ。段ボールのデザインは、ユーザーのイメージと印刷結果がずれていることも珍しくない。ポスターやチラシに印刷するのは違い、段ボール印刷用製版特有の難しさがある。フルカラーでなく、限られた色数で表現しなければならぬことも、ユーザーのイメージが現実と離れてしまう理由の一つかもしれない。その点を踏まえ、相互製版株式会社では「ファーストコンタクト」を大事にしている。



「我々の目線ではなかなか気付けない、分からないことを、メーカーを通して詳細に提案してもらえ。これは大きなメリット。自分たちの要望をメーカーに伝えた結果、さらに良いものが出てきて、それを現場に還元できる。」小笠原所長は、フィルムと共々メーカーでサプライヤーである三菱製紙・ダイヤモンドとの連携で生まれるコミュニケーションの重要度も高いのだ。メーカーとのコミュニケーションを充実させることにより、自社の製品品質の向上に役立てようともしている。また、社外だけではなく社内での他の事業所とも情報交換を行っている。新型コロナウイルス禍は、コミュニケーションの機会を限定した一方で、オンラインでのコミュニケーションの役割も担った。

積によって仕事をしたいというわけだから、やはり国産のフィルム・メーカーは身近で安心ができる。」例えば困った時や新しいトレンドについて知りたい時など、丁寧な対応が期待できることもメリットだと話してくれた。

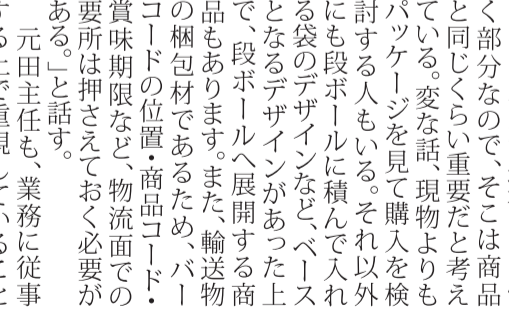
「日々の仕事の中で色々足して試行錯誤すること、業務は引き算ができて研ぎ澄めるのだと実感している。銀塩フィルムを使っていた頃は、現像定着の工程



「ファーストコンタクト」と「引き算」の大切さ。段ボールのデザインは、ユーザーのイメージと印刷結果がずれていることも珍しくない。ポスターやチラシに印刷するのは違い、段ボール印刷用製版特有の難しさがある。フルカラーでなく、限られた色数で表現しなければならぬことも、ユーザーのイメージが現実と離れてしまう理由の一つかもしれない。その点を踏まえ、相互製版株式会社では「ファーストコンタクト」を大事にしている。

「日々の仕事の中で色々足して試行錯誤すること、業務は引き算ができて研ぎ澄めるのだと実感している。銀塩フィルムを使っていた頃は、現像定着の工程

「ファーストコンタクト」と「引き算」の大切さ。段ボールのデザインは、ユーザーのイメージと印刷結果がずれていることも珍しくない。ポスターやチラシに印刷するのは違い、段ボール印刷用製版特有の難しさがある。フルカラーでなく、限られた色数で表現しなければならぬことも、ユーザーのイメージが現実と離れてしまう理由の一つかもしれない。その点を踏まえ、相互製版株式会社では「ファーストコンタクト」を大事にしている。

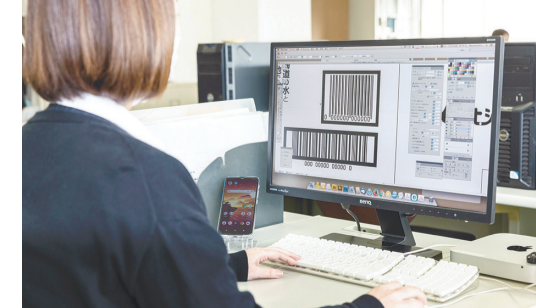


「ファーストコンタクト」と「引き算」の大切さ。段ボールのデザインは、ユーザーのイメージと印刷結果がずれていることも珍しくない。ポスターやチラシに印刷するのは違い、段ボール印刷用製版特有の難しさがある。フルカラーでなく、限られた色数で表現しなければならぬことも、ユーザーのイメージが現実と離れてしまう理由の一つかもしれない。その点を踏まえ、相互製版株式会社では「ファーストコンタクト」を大事にしている。

「ファーストコンタクト」と「引き算」の大切さ。段ボールのデザインは、ユーザーのイメージと印刷結果がずれていることも珍しくない。ポスターやチラシに印刷するのは違い、段ボール印刷用製版特有の難しさがある。フルカラーでなく、限られた色数で表現しなければならぬことも、ユーザーのイメージが現実と離れてしまう理由の一つかもしれない。その点を踏まえ、相互製版株式会社では「ファーストコンタクト」を大事にしている。

相互製版株式会社 北海道事業所 Company Profile

所長：小笠原 匠
〒061-1406
北海道恵庭市和光町
5-12-25
TEL. 0123-34-3777
FAX. 0123-34-3778
<http://www.sogo-seihan.com>



がある資材が多かったし、フロア横には資材置き場があった。メンテナンスも、内部の基盤エラーが多くて保守に付きつきりだった。しかし現在は、フィルム梱包もコンパクトだし、エラー内容も分かりやすく表示される。自分たちでトラブルを解決できる場面も多くなった。たくさんさんのモノを使って試行錯誤した経験から、本当に必要なのと不要なもの、目利きができるように、断捨離しても質を落とさないパフォーマンスに繋がっていると思う。」北の大地には、本物の製版職人たちがいた。

ユーザー会社レポート

商品の付加価値は 従業員のやりがいで決まる!

厳しい労働環境を改善する TRF-IR830の実力



和歌山県橋本市 プリントテクニカ

サーマルレーザー製版フィルム TRF-IR830 TRENDSETTER Q800 DIALIBRE

西山 会長

株式会社プリントテクニカは、1988年7月に創業した和歌山県橋本市の印刷会社。東大阪市の御厨で創業後、今米・水走へと拠点を移し、2017年1月から和歌山県に新鋭工場を建設。創業のタイミンクについて西山勇助会長に伺うと「厄落しに創業した」とのこと。西山会長は、化学系メーカーで16年間エンジニアとして勤めた後、営業部門へ移動。そこで「モノを売るには自分から売らなければならぬ」と奮起し、トップセールスマンの座を獲得。その後、4名で事業をスタートさせて以来、ものづくりの現場を離れて一貫して営業主体の経営に取り組み、従業員40名の規模に発展させた。2018年9月からは西山一樹代表取締役の下、スクリーン印刷の技術をベースに新たな印刷技術を組み合わせ、時代の変化に対応しつつ多くの製品を生み出している。

技術力を売りにする企業

の弱点について、西山会長は「技術バカになること」だと話す。自社の技術に絶対の自信があったとしても、陳腐化が進んで井の中の蛙になるリスクは避けられない。熱意と緻密さを掛け合わせた営業活動によって、外部の情報に積極的に集めてきた効果は、独自性の高い製品のラインナップに反映されている。自動車・オートバイ・携帯電話など様々なものに簡単に貼り付けられるステッカー「プリンタック」や、女性の肌貼り付けても3〜4日以上はがれない「タトゥーシール」など、幅広いニーズにフィットする製品を製造・販売している。



TRF-IR830は、ダイミックスが既存の製版システムに代わって打ち出した無処理の最新世代製版用フィルムで、830nmの赤外線レーザー光による感熱反応により画像を形成せず、廃液の処理や回収は不要。フィルム膜面の保護層が傷付きを防ぎ、清掃時に使用するアルコールやクリーナーに対しても優れた耐久性を発揮する。出力時にデブリや不快な臭いを発生することがないので、快適な作業環境のもと従業員が作業できるメリットも備える。

印刷の現場で長年運用されてきた有処理のイメージセッターは、様々な分野で終焉を迎えようとしている。一例として現像処理のあるレントゲン写真は電子データへの置き換えが進んでおり、病院内のネットワークを介してあらゆる場所から画像を観察・確認することが可能となっている。現像液を使ったフィルム出力は、環境保全の観点から忌避されており、従業員の負担も大きい。西山会長は、そういった業界全体の変化を見据えて無処理フィルムであるTRF-IR830を導入した。

導入の理由について、西山会長は「実質的に、イメージセッターのサポートがなくなってしまっている状況で故障時に手厚いサポートが受けられるかどうかも不安要素だった。そういった事情もあって、フィルムを色々試していたが、なかなかいいものが見つからなかった。インクジェットシステムも試したことはあるが、フィルムの伸縮・水に対する弱さ・再現性・精密性と多くの課題が出た。フィルムそのものがスクリーン印刷にとつて絶対の存在とは言えないが、当社の設備にフィットするものを選ぶとなると、やはりデータをしつかり再現できるフィルムの存在は重要だ。」と話す。

実際にフィルム検証に携わった企画・デザイン室の村嶋萌衣さんは「品質についてこれまで使用していたイメージセッターのフィルムと遜色なく、正直なところ他と比べると比較し、黒化濃度が低く版にうまく焼き付けられるか心配でしたが製版には問題なく、逆にポジ同士を重ねての塗り足し確認が一目でわかるので助かっている。また、嫌な臭いがないのは一番ありがたい。」と高評価。

「TRF-IR830の本領を発揮させる上で重要なのがセッターだ。プリントテクニカでは、TRF-IR830の出力に対応したTrendsetterを導入している。サーマルプレートセッターとして、長年培ってきた精度・安定性の高さが魅力だ。

かねてから現場では、イメージセッターのメンテナンスについて不満があったという。しかし、Trendsetterの導入によって改善された。

この点について西山会長は「有処理のイメージセッターはとにかくメンテナンスが大変。廃液処理をしなきゃいけないし臭いもひどい。それでも1ヶ月に1回は清掃に入らなといけないし、冬場は立ち上がるまでに45分かかるともあるから、電気代がどのくらいかかっているのか考えると怖くなるほど。正直、現場の人間は連休が近づいたら嫌になる。そこが一気に改善された。あとは、従来型のシステムの歴史が終わろうとしているので、これをカバーするために導入

「TRF-IR830」の導入の理由について、西山会長は「実質的に、イメージセッターのサポートがなくなってしまっている状況で故障時に手厚いサポートが受けられるかどうかも不安要素だった。そういった事情もあって、フィルムを色々試していたが、なかなかいいものが見つからなかった。インクジェットシステムも試したことはあるが、フィルムの伸縮・水に対する弱さ・再現性・精密性と多くの課題が出た。フィルムそのものがスクリーン印刷にとつて絶対の存在とは言えないが、当社の設備にフィットするものを選ぶとなると、やはりデータをしつかり再現できるフィルムの存在は重要だ。」と話す。

「これまでで設置しなればならなかったし、クロウズドにしないと臭いがひどくて作業できなかった。Trendsetterは奥まった場所に置いても違和感がない大きさで、今は製版室に配置している。廃液の回収もないので、作業着が臭くならないのも助かる。デザイン室のスタッフは2名だが、この少数人数でもメンテナンスに不自由ないのはありがたい。メンテナンスしなくていい、臭いもないという条件は、女性にとっては嬉しいはず。次の担当者にとっては、Trendsetterが置かれている環境が当たり前になる。きっともう前の時代には戻れないだろうと思う。」と環境の変化を前向きに捉えている。

「TRF-IR830」の導入の理由について、西山会長は「実質的に、イメージセッターのサポートがなくなってしまっている状況で故障時に手厚いサポートが受けられるかどうかも不安要素だった。そういった事情もあって、フィルムを色々試していたが、なかなかいいものが見つからなかった。インクジェットシステムも試したことはあるが、フィルムの伸縮・水に対する弱さ・再現性・精密性と多くの課題が出た。フィルムそのものがスクリーン印刷にとつて絶対の存在とは言えないが、当社の設備にフィットするものを選ぶとなると、やはりデータをしつかり再現できるフィルムの存在は重要だ。」と話す。

「TRF-IR830の本領を発揮させる上で重要なのがセッターだ。プリントテクニカでは、TRF-IR830の出力に対応したTrendsetterを導入している。サーマルプレートセッターとして、長年培ってきた精度・安定性の高さが魅力だ。

かねてから現場では、イメージセッターのメンテナンスについて不満があったという。しかし、Trendsetterの導入によって改善された。

この点について西山会長は「有処理のイメージセッターはとにかくメンテナンスが大変。廃液処理をしなきゃいけないし臭いもひどい。それでも1ヶ月に1回は清掃に入らなといけないし、冬場は立ち上がるまでに45分かかるともあるから、電気代がどのくらいかかっているのか考えると怖くなるほど。正直、現場の人間は連休が近づいたら嫌になる。そこが一気に改善された。あとは、従来型のシステムの歴史が終わろうとしているので、これをカバーするために導入

「これまでで設置しなればならなかったし、クロウズドにしないと臭いがひどくて作業できなかった。Trendsetterは奥まった場所に置いても違和感がない大きさで、今は製版室に配置している。廃液の回収もないので、作業着が臭くならないのも助かる。デザイン室のスタッフは2名だが、この少数人数でもメンテナンスに不自由ないのはありがたい。メンテナンスしなくていい、臭いもないという条件は、女性にとっては嬉しいはず。次の担当者にとっては、Trendsetterが置かれている環境が当たり前になる。きっともう前の時代には戻れないだろうと思う。」と環境の変化を前向きに捉えている。

「これまでで設置しなればならなかったし、クロウズドにしないと臭いがひどくて作業できなかった。Trendsetterは奥まった場所に置いても違和感がない大きさで、今は製版室に配置している。廃液の回収もないので、作業着が臭くならないのも助かる。デザイン室のスタッフは2名だが、この少数人数でもメンテナンスに不自由ないのはありがたい。メンテナンスしなくていい、臭いもないという条件は、女性にとっては嬉しいはず。次の担当者にとっては、Trendsetterが置かれている環境が当たり前になる。きっともう前の時代には戻れないだろうと思う。」と環境の変化を前向きに捉えている。

「これまでで設置しなればならなかったし、クロウズドにしないと臭いがひどくて作業できなかった。Trendsetterは奥まった場所に置いても違和感がない大きさで、今は製版室に配置している。廃液の回収もないので、作業着が臭くならないのも助かる。デザイン室のスタッフは2名だが、この少数人数でもメンテナンスに不自由ないのはありがたい。メンテナンスしなくていい、臭いもないという条件は、女性にとっては嬉しいはず。次の担当者にとっては、Trendsetterが置かれている環境が当たり前になる。きっともう前の時代には戻れないだろうと思う。」と環境の変化を前向きに捉えている。

「転写印刷をお遊びの世界で終わらせず、工業的な分野でも使っていた。強度・耐久性に優れたものを作ろうというのが我々のミッションだった。具体的には、カー用品・ヘルメット・自転車・産業機械に使ってもらうレベルのものを作って、それが世の中に受け入れられた。そのような背景もあってか、転写印刷は学術的な本や特許が非常に少ない分野。私自身がエンジニアとして培ってきた技術も応用されていて、品質自体がブラックボックス化している。付加価値を高めること自体は高橋を出たばかりのスタッフでも可能だが、ノウハウ自体は外

「転写印刷をお遊びの世界で終わらせず、工業的な分野でも使っていた。強度・耐久性に優れたものを作ろうというのが我々のミッションだった。具体的には、カー用品・ヘルメット・自転車・産業機械に使ってもらうレベルのものを作って、それが世の中に受け入れられた。そのような背景もあってか、転写印刷は学術的な本や特許が非常に少ない分野。私自身がエンジニアとして培ってきた技術も応用されていて、品質自体がブラックボックス化している。付加価値を高めること自体は高橋を出たばかりのスタッフでも可能だが、ノウハウ自体は外

「転写印刷をお遊びの世界で終わらせず、工業的な分野でも使っていた。強度・耐久性に優れたものを作ろうというのが我々のミッションだった。具体的には、カー用品・ヘルメット・自転車・産業機械に使ってもらうレベルのものを作って、それが世の中に受け入れられた。そのような背景もあってか、転写印刷は学術的な本や特許が非常に少ない分野。私自身がエンジニアとして培ってきた技術も応用されていて、品質自体がブラックボックス化している。付加価値を高めること自体は高橋を出たばかりのスタッフでも可能だが、ノウハウ自体は外

株式会社 プリントテクニカ Company Profile

代表：西山一樹
〒648-0062
和歌山県橋本市妻3丁目5-15
TEL. 0736-33-7115
FAX. 0736-33-7105
http://www.printac.co.jp/

「TRF-IR830の本領を発揮させる上で重要なのがセッターだ。プリントテクニカでは、TRF-IR830の出力に対応したTrendsetterを導入している。サーマルプレートセッターとして、長年培ってきた精度・安定性の高さが魅力だ。

かねてから現場では、イメージセッターのメンテナンスについて不満があったという。しかし、Trendsetterの導入によって改善された。

この点について西山会長は「有処理のイメージセッターはとにかくメンテナンスが大変。廃液処理をしなきゃいけないし臭いもひどい。それでも1ヶ月に1回は清掃に入らなといけないし、冬場は立ち上がるまでに45分かかるともあるから、電気代がどのくらいかかっているのか考えると怖くなるほど。正直、現場の人間は連休が近づいたら嫌になる。そこが一気に改善された。あとは、従来型のシステムの歴史が終わろうとしているので、これをカバーするために導入

ユーザー会社レポート



多様なニーズにスピード感を
持って対応したい!

顧客の期待に応えつつ
環境を守るTDP-459IIの実力

川瀬代表取締役
岐阜県養老郡
丸吉

感熱製版フィルムTDP-IF125
サーマルディジプレートシステム「TDP-459II」

株式会社丸吉は、1979年に岐阜県養老郡で特殊印刷・銘板会社として産声を上げ、その後は樹脂加工・板金加工・塗装・金属加工と仕事の幅を広げている。黄色の看板がトレードマークの本社には工場もあり、仕事を社内で一貫して進められる体制を整えている。丸吉で大切にしている考え方は「スピード・タイムイング・スマートロット」の3つで、自社で工場・設備を用意していることから、特に迅速な対応を重視していることが分かる。

営業面でも力を入れており、東海3県や関西に10名のスタッフが飛ぶ。日本の中心という岐阜県の地の利を活かし、名古屋を中心に仕事を獲得している。自前の設備だけでなく、営業力も丸吉の強みと言えるだろう。

TDP-459IIの導入で絶滅危惧種の「ハリヨ」にも配慮

丸吉が導入したサーマルディジプレートシステム「TDP-459II」(以下TDP)は、トナー・インクを使わない完全プロセスのCTP/CTF。メンテナンスの負担が少なく、刷版と製版フィルムの両方が出力可能だが、丸吉ではフィルム出力用に特化し、シルクスクリーン用途として採用した。

導入時期は2020年4月で、導入のきっかけとして川瀬代表取締役は「現在の廃液の出るタイプなので、無処理のシステムを探していた。展示会でTDPを見て、無処理のシステムの入門機としても、またコストも良さそうということで導入を決断した記憶がある。現在は両機種を使い分けているが、近い将来にはすべて無処理のシステムにしたいと考えている。TDPは従来機と比較して出力速度が速いので、かなり時間短縮になっている。メンテナンスの面でも、ローラーを洗わなくていいのは大きなメリット。」と話す。

顧客の信頼を勝ち取るために

「TDPはフィルムが簡単で、本体のサイズもコンパクトなところがいい。ただ、当社は機械を止めないで、故障時のメンテナンス対応も重視している。電話入れたら、すぐに走ってきてくれるメーカーとお付き合いしたい。」丸吉は、顧客の要望に対応するため、同じスピード感を求めているのだ。



川瀬代表取締役は、丸吉に入社してから勤続39年。現場・営業・総務を一通り経験してきた。顧客とのやり取りが長い分だけ、顧客が良い品を求めている気持ちは分かる。印刷だけでなく樹脂・機械・薄板板金加工も行うのも、顧客のニーズがあつてこそ判断だ。

「営業が顧客の要望に応えられるよう、タイムイングを見計らって設備投資をしている。」

せっかく営業が持つべき仕事を失わないためには、「スピードディーかつポイントを押さえた製品づくりが重要になる。そのため、丸吉が設備投資を行う場合の、機器の選考基準はシビアだ。」

1分でも1秒でも早くフィルムが出せる機械が欲しい

業務の幅が広く規模が大きい丸吉では、迅速に仕事を回せる体制を整えている。当日に受注して、当日に作るケースも少なくないことから、それだけ即座に稼働できる機械でなければ仕事は務まらない。TDPの場合、本格的に稼働する前の準備時間がない。プリンターと同じように、電源を入れたらすぐに出力できる。

この点について、川瀬代表取締役は「営業が納品後、また新しい仕事を持って帰って来ても、工場側で受け入れられるようにしている、それを信じているからこそ、営業側も首を縦に振れる。TDPの一番のメリットはそのスピード感。当社では1分でも1秒でも早くフィルムが出せる機械が欲しい。」と話す。

株式会社 丸吉 Company Profile

代表者：川瀬 一
〒503-1325
岐阜県養老郡養老町飯ノ木200番地
TEL. 0584-34-1155
FAX. 0584-34-0906
http://www.y-maruyoshi.co.jp

シルクスクリーン印刷は「黒の濃さ」と「精度」が命!

取引先との信頼をつなぐ
ピクトリコ・SAI インクジェット製版システム

竹岡代表取締役

岡山県岡山市
千々木マーク工業

ピクトリコ「SAIインクジェット製版システム」
「ピクトリコ製版フィルムTPFB100」+「EPSON SC-P6050」
+ RIPソフト「SAI製版用 FlexiPRINT SS」

千々木マーク工業株式会社は、岡山市南区のステッカー・銘板・看板・名札などの製造販売会社。もともと別会社の製造部門だったが、1985年に独立後、現在の社名に変更となった。シルクスクリーン印刷が事業の中心であり、ラベルステッカー、アルミ等の銘板、安全関係の表示板など幅広く手掛ける。

下請け特化で、自社に営業を置かずとも、取引先から依頼を受ける好循環が出来上がっている。PLシールや商品名のシールなど、顧客が製造した機器に貼り付けるものを製造することも多い。竹岡代表取締役は「リーマンショックで痛手をこうむったこともある」と話してくれたが、総じて堅実な経営を実践している。

今回の入れ替えのポイントとして、竹岡代表取締役はRIPソフトの充実をあげる。「以前使用していたソフトはSAI以外のものだったが、ソフト自体がSAIよりも高価だったし、サポート体制にも不満があった。結局のところ、フィルムに対してシルクの版が取ればよいわけで、RIPソフトの切り替えには抵抗がなかった。」

新たに導入したSAIインクジェット製版システムは、フィルムが出来栄に影響を与えることなく、導入コストの低減とサポートの充実を実現している。

SAIインクジェット製版システムは、17インチ(432mm)幅から、42インチ(1067mm)幅の大判出力まで、製版市場のニーズに対応できるインクジェット製版出力システム。ピクトリコ製版フィルムを使用し、RIPソフト「SAI製版用 FlexiPRINT SS」と「EPSONインクジェットプリンター」を組み合わせて、製版フィルムの作成を実現する。千々木マーク工業はピクトリコ製版フィルム20年間のユーザーであり、導入のきっかけについて竹岡代表取締役は「それまでは写真製版専門の業者がたくさんいたので、イメージセッターでのフィルム出力をお願いしていたが、軒並み消滅して自前化が必要になったのがきっかけ。」と話す。

シルクスクリーン印刷では、印刷版を作成するのにフィルムが必要であり、千々木マーク工業では今回の製版システム更新に際しても引き続きピクトリコ製版フィルムを採用している。

現場で培った目が
見極めるフィルムに
対する信頼度

竹岡代表取締役がフィルムに求めるものは「黒の濃さ」と「精度」で、カレンダーなど細かい印刷を要求される商品では重要になる。逆に考えれば、その点について合格点を出せるフィルムに限られているとも言える。今回導入したシステムに関して、作業効率を高めるための微調整を行っているが、フィルムに関しては変更の予定はないようだ。

「インクジェットも進化している、最近の印刷物の線はシャープになっている。昔は、端に行くほどぼけていたようなフィルムだった時代もあったから、その頃に比べてフィルムも進化していると思う。システムも含めて見るべきところはたくさんあるが、やっぱり当社にとっては精度が最も重要。正直、耐熱性や耐水性の数値だけで言えば、他の選択肢もあったと思うが、シルクの場合は耐水性をそこまで重視しなくてもいい。設備一式の価格帯やランニングコストを考えると、今回の選択が妥当だったと考えている。」

長年現場での経験を積んだ竹岡代表取締役は、自社に必要な機能を見極めた上で、ピクトリコ製版フィルムを選んでいる。

下請けに特化した「1社に依存しない」安定経営

千々木マーク工業の将来の展望として、竹岡代表取締役は「現場に仕事を落とす後継者を育てる」という課題と話す。ただ、営業面に関しては、当面のところ自前で営業部門を立ち上げない予定だ。

「ありがたいことに、複数の取引先から仕事をいただけている。1社だけを例にとっても、広島・岡山・米子・高知・

千々木マーク工業株式会社 Company Profile

代表者：竹岡 哲
〒701-0221
岡山県岡山市南区藤田626番地11
TEL. 086-296-0811
FAX. 086-296-0812
https://www.chijikimark.com

下請けに特化と聞くとリスキーに感じられるが、千々木マーク工業の場合、1社には依存していないことが分かる。広範囲から仕事をもたらすことで、経営リスクを減らしているのだ。

「他社に比べて、当社は自前のできる範囲が広い。だから発注側としては頼みやすいと思う。」

信頼醸成のために技術を磨く。それが安定経営の秘訣なのかもしれない。

